

First Hit

L13: Entry 18 of 122

File: JPAB

Jan 8, 2004

PUB-NO: JP02004005196A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2004005196 A

TITLE: ITEM EDITING/BALANCE SETTING METHOD, ITEM EDITING/BALANCE SETTING PROGRAM,
STORAGE MEDIUM AND TRIAL BALANCE DISPLAY SCREEN

PUBN-DATE: January 8, 2004

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

TSUCHIMOTO, KAZUO

USUI, MUNETAKA

TATSUTA, TOSHIHIKO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

NIPPON DIGITAL KENKYUSHO:KK

APPL-NO: JP2002159811

APPL-DATE: May 31, 2002

INT-CL (IPC): G06 F 17/60

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide an item editing/balance setting method, an item editing/balance setting program and a storage medium that can facilitate item editing, such as item addition and correction, and balance setting at the introduction of an accounting system and at arbitrary time.

SOLUTION: An item editing/balance setting screen 70 is displayed, which has an entry/display field 75 with a plurality of columns of item code display fields 75-1, item display fields 75-2, credit/debit account fields 75-3, item availability setting fields 75-4, opening balance fields 75-5, debit amount fields 75-6, credit amount fields 75-7 and carried-forward balance fields 75-8, and a screen for item editing/balance setting corresponding to a selection from designation buttons 72-1 to 72-8 in an item editing/balance setting processing selection field 72 is displayed in superposed relation to request a selection or entry of data, so that according to the data selected or entered on the screen, an item name file and an item balance file are updated.

COPYRIGHT: (C) 2004, JPO

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-5196

(P2004-5196A)

(43) 公開日 平成16年1月8日(2004.1.8)

(51) Int. Cl.⁷

G06F 17/60

F I

G06F 17/60 166

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 14 頁)

(21) 出願番号 特願2002-159811 (P2002-159811)
 (22) 出願日 平成14年5月31日 (2002.5.31)

(71) 出願人 591008605
 株式会社日本デジタル研究所
 東京都江東区新砂1丁目2番3号
 (74) 代理人 100072383
 弁理士 永田 武三郎
 (72) 発明者 土本 一生
 東京都江東区新砂1丁目2番3号 株式
 会社日本デジタル研究所内
 (72) 発明者 臼井 宗孝
 長野県松本市大字和田字南西原4010-
 3 株式会社日本デジタル研究所松本研
 究開発センター内
 (72) 発明者 立田 俊彦
 長野県松本市大字和田字南西原4010-
 3 株式会社日本デジタル研究所松本研
 究開発センター内

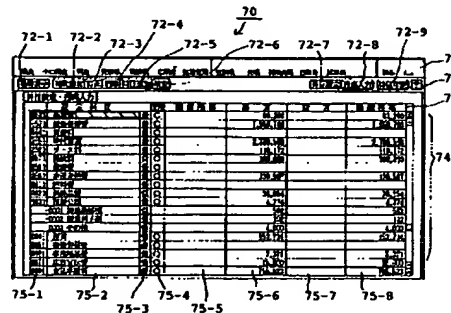
(54) 【発明の名称】 科目編集/残高設定方法、科目編集/残高設定プログラム、記憶媒体及び残高試算表表示画面

(57) 【要約】

【課題】 会計処理システムの導入時や任意の時点で科目の追加、訂正等の科目編集や残高設定を簡単に行うことのできる科目編集/残高設定方法、科目編集/残高設定プログラム及び記憶媒体の提供。

【解決手段】 科目コード表示欄75-1、科目表示欄75-2、貸借区分欄75-3、科目使用可否設定欄75-4、期首残高欄75-5、借方取引額欄75-6、貸方取引額欄75-7及び繰越残高欄75-8とを複数行配置した入力/表示欄75を備えた科目編集/残高設定画面70を表示し、科目編集/残高設定処理選択欄72の指示ボタン72-1〜72-8の選択に応じた科目編集/残高設定用の画面を重畳表示してデータの選択や入力を促し、その画面で選択又は入力されたデータに基づいて科目名ファイルや科目別残高ファイルを更新する。

【選択図】 図7



【特許請求の範囲】

【請求項1】

編集対象の科目名表示領域と、当該科目を使用するか否かを示す科目使用区分表示領域、期首残高の設定データを入力する期首残高入力領域と、指定された期間の借方取引総額を表示する借方取引額表示領域と、指定された期間の貸方取引総額を表示する貸方取引額表示領域及び繰越残高表示領域とを配置した入力／表示領域行を複数備えた科目編集／残高設定画面を表示する工程と、

科目編集／残高設定用の指示を行う工程と、

前記科目編集／残高設定用の科目設定指示の種類を判別する工程と、

前記判別した指示に対応する入力画面を表示する工程と、

10

前記入力画面に前記判別した指示に対応するデータを入力する工程と、

前記入力画面に入力されたデータに基づいて、科目編集／残高設定用の新規データ又は科目編集／残高設定用の訂正データを生成する工程と、

前記生成されたデータを科目名メモリ及び／又は残高メモリに記憶する工程と、を備えたことを特徴とする科目編集／残高設定方法。

【請求項2】

複数の取引データを表示する表示画面及び残高試算表表示画面を表示可能な会計処理装置で実行可能なプログラムであって、

編集対象の科目名表示領域と、当該科目を使用するか否かを示す科目使用区分表示領域、期首残高の設定データを入力する期首残高入力領域と、指定された期間の借方取引総額を表示する借方取引額表示領域と、指定された期間の貸方取引総額を表示する貸方取引額表示領域及び繰越残高表示領域とを配置した入力／表示領域行を複数備えた科目編集／残高設定画面を表示するステップと、

20

科目編集／残高設定用の指示を検出するステップと、

前記検出した指示に対応する入力画面を表示するステップと、

前記入力画面に前記判別した指示に対応するデータを入力するステップと、

前記入力画面に入力されたデータに基づいて、科目編集／残高設定用の新規データ又は科目編集／残高設定用の訂正データを生成するステップと、

前記生成されたデータを科目名メモリ及び／又は残高メモリに記憶するステップと、を備えたことを特徴とする科目編集／残高設定プログラム。

30

【請求項3】

コンピュータによって記憶内容が読取可能な記憶媒体であって、請求項2記載の科目編集／残高設定プログラムを記憶したことを特徴とする記憶媒体。

【請求項4】

勘定科目及び取引金額を含む取引記録を基に作成され、各勘定科目毎に前記取引額を集計し、残高を含む合計額を表示する残高試算表の表示手段であって、

前記取引額を集計期間を選択・指定する集計期間選択・指定手段と、

勘定科目の追加、訂正等の編集及び前記勘定科目の残高設定指示を行う科目編集／残高設定指示手段と、

を備えたことを特徴とする残高試算表表示画面。

40

【請求項5】

前記勘定科目には補助科目を含み、前記科目編集／残高設定指示手段は補助科目の追加、訂正等の編集指示及び前記補助科目の残高設定指示を兼ねていることを特徴とする請求項4記載の残高試算表表示画面。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は会計処理技術に関し、特に、科目編集及び残高設定が容易な会計処理技術に関する。

【0002】

50

【従来の技術】

会計処理用に設計された会計処理装置やパソコン等に会計処理用プログラムをインストールして会計事務処理を行なう会計処理システムが市販され、利用されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、会計処理システムの導入時等に行う科目編集や残高設定は、事業規模の大小に係わらず手間がかかることが知られている。特に、期の途中で会計処理システムを導入する場合などは、従来の方式によれば、科目設定のあと期首残高を設定し、且つ遡ってデータを入力する必要があるので、専門的な会計・税務知識のない小規模法人や個人事業者の場合は、人手が乏しいこともあって導入がスムーズに行われない可能性がある。

10

【0004】

また、従来は勘定科目の設定や勘定科目訂正等の勘定科目編集、補助科目の設定や補助科目訂正等の補助科目編集、残高入力メニュー画面でそれぞれメニューを選択してそれぞれの設定画面（図14に従来の残高設定画面の一例を示す）や入力画面を表示して編集や設定を行っているので、操作上煩わしいといった問題点もあった。

【0005】

本発明は、上記問題点の解決を目的としてなされたものであり、会計処理システムの導入時や任意の時点で科目の追加、訂正等の科目編集や残高設定を簡単に行うことのできる科目編集／残高設定方法及びこの科目編集／残高設定方法を実行し得る科目編集／残高設定プログラム及びこの科目編集／残高設定プログラムを記憶した記憶媒体、及び科目編集／残高設定プログラムを呼び出す手段を備えた残高試算表の提供を目的とする。

20

【0006】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するため、第1の発明の科目編集／残高設定方法は、編集対象の科目名表示領域と、当該科目を使用するか否かを示す科目使用区分表示領域、期首残高の設定データを入力する期首残高入力領域と、指定された期間の借方取引総額を表示する借方取引額表示領域と、指定された期間の貸方取引総額を表示する貸方取引額表示領域及び繰越残高表示領域とを配置した入力／表示領域行を複数備えた科目編集／残高設定画面を表示する工程と、科目編集／残高設定用の指示を行う工程と、科目編集／残高設定用の科目設定指示の種類を判別する工程と、判別した指示に対応する入力画面を表示する工程と、入力画面に判別した指示に対応するデータを入力する工程と、入力画面に入力されたデータに基づいて、科目編集／残高設定用の新規データ又は科目編集／残高設定用の訂正データを生成する工程と、生成されたデータを科目名メモリ及び／又は残高メモリに記憶する工程と、を備えたことを特徴とする。

30

【0007】

また、第2の発明の科目編集／残高設定プログラムは、複数の取引データを表示する表示画面及び残高試算表表示画面を表示可能な会計処理装置で実行可能なプログラムであって、編集対象の科目名表示領域と、当該科目を使用するか否かを示す科目使用区分表示領域、期首残高の設定データを入力する期首残高入力領域と、指定された期間の借方取引総額を表示する借方取引額表示領域と、指定された期間の貸方取引総額を表示する貸方取引額表示領域及び繰越残高表示領域とを配置した入力／表示領域行を複数備えた科目編集／残高設定画面を表示するステップと、科目編集／残高設定用の指示を検出するステップと、検出した指示に対応する入力画面を表示するステップと、入力画面に判別した指示に対応するデータを入力するステップと、入力画面に入力されたデータに基づいて、科目編集／残高設定用の新規データ又は科目編集／残高設定用の訂正データを生成するステップと、生成されたデータを科目名メモリ及び／又は残高メモリに記憶するステップと、を備えたことを特徴とする。

40

【0008】

また、第3の発明の記憶媒体は、コンピュータによって記憶内容が読取可能な記憶媒体であって、上記第2の発明の科目編集／残高設定プログラムを記憶したことを特徴とする。

50

【0009】

また、第4の発明の残高試算表表示画面は、勘定科目及び取引金額を含む取引記録を基に作成され、各勘定科目毎に取引額を集計し、残高を含む合計額を表示する残高試算表の表示画面であって、取引額の集計期間を選択・指定する集計期間選択・指定手段と、勘定科目の追加、訂正等の編集及び勘定科目の残高設定指示を行う科目編集／残高設定指示手段と、を備えたことを特徴とする。

【0010】

また、第5の発明は上記第4の発明の残高試算表表示画面において、勘定科目には補助科目を含み、科目編集／残高設定指示手段は補助科目の追加、訂正等の編集指示及び補助科目の残高設定指示を兼ねていることを特徴とする。

10

【0011】

【発明の実施の形態】

図1は本発明の記帳システムを適用可能な会計処理装置のハードウェア構成を示すブロック図であり、会計処理装置1は、制御部10、キー入力部11、ポインティングデバイスとしてのマウス12、記憶媒体アクセス部13、表示部14、保存記憶メモリ15及びプリンタ17を備えている。なお、ネットワークと接続して外部装置とデータ授受を行う通信制御部16を備えるようにしてもよい。また、小規模法人や小規模事業者の使用する会計処理装置として、同様の構成を備えたパーソナルコンピュータ（パソコン）を用いることができる。

【0012】

制御部10は、CPU、プログラム格納メモリおよびRAM等の周辺回路（図示せず）からなり、上述の各構成部分の動作及び会計処理装置1全体の動作を制御する。また、プログラム格納メモリには制御プログラム等を格納している。制御部10はジョブが選択されると制御プログラムの制御に基づき保存記憶メモリ15に記憶されている各プログラムの中から必要なプログラムを取り出してRAMに駐在させ、そのプログラムに従って会計処理装置1の各構成部分を動作させたり、判定や計算等を行って処理を実行する。

20

【0013】

キー入力部11はデータ入力用のキーボードやファンクションキー等を備え、オペレータはキーボードやファンクションキー等を用いて領収書や納品書、売上伝票等のメモを基に帳簿データや会計データの入力や、科目編集時の科目名等の入力、残高設定時の残高入力等を行う。キー操作が行われると制御部10に選択又は指定されたキーのコード及び状態信号等が送出される。

30

【0014】

マウス12は画面上に表示される選択ボタンやアイコン、メニュー等を選択する選択手段や、ウインドウに一覧表示される取引名や摘要名等の選択手段等として用いられ、オペレータによりクリック操作が行われると制御部10に選択又は指定された画面上の位置情報が送出される。

【0015】

記憶媒体アクセス部13は、CDやFD等の記憶媒体を着脱自在に構成されており、会計処理システムのインストール時に、上記発明の記憶媒体に記憶された本発明の科目編集／残高設定プログラムや残高試算表プログラムを含む会計処理システム用プログラムを読み取ったり、記憶媒体に記憶されたデータを読み取ったり、会計年度の切替え時に前年度データを記憶媒体に書き込んだりする際に駆動される。

40

【0016】

表示部14はディスプレイ等の表示装置からなり、処理選択用のアイコンやボタン、或いはメニューやメッセージを表示すると共に、入力画面や帳簿等の表示を行う。また、キー入力された帳簿データや、摘要及び科目情報等を入力／表示画面の所定の位置に表示する。

【0017】

保存記憶メモリ15は、HD（ハードディスク）やMO（光磁気ディスク）等のようにデ

50

ータの保存記憶及び読み出しが可能なメモリであり、保存記憶メモリ15の一部にはプログラム記憶領域及び各帳簿毎のデータ入力／表示画面（或いは会計データの入力画面）のフォーマットデータや定数を記憶する領域及び他のシステムで規定されたファイル領域が確保されており、会計処理システムのインストール時に、CD等の記憶媒体から取り込んだ本発明の科目編集／残高設定プログラムや残高試算表プログラム等を含む会計処理システムプログラムや、画面データ及び定数等や、会計処理システム用の、各帳簿ファイル、元帳ファイル、・・・出納帳ファイル2、科目別残高ファイル3、科目名ファイル4、・・・等のファイルが記憶される。なお、プログラムや画面データ及び定数は制御部10のプログラム格納メモリに記憶するようにしてもよい。また、これらのファイルは個別のファイル形式でもよいし、データベース形式であってもよい。

10

【0018】

会計処理システムプログラムは、会計処理装置1で試算表を表示し、科目設定又は科目編集指示が行われると科目編集／残高設定プログラムを呼出し、科目編集／残高設定画面を表示し、科目編集や残高入力を可能とする。また、設定されている科目や残高の一覧表示を行うこともできる。会計処理システムプログラムは科目編集／残高設定された結果と出納帳ファイルに記憶されている出納帳データや元帳ファイルに記憶されている元帳データを用いて集計を行って、勘定科目毎に指定した所望の期間の試算表を作成し、画面表示又は印刷出力することができる。

【0019】

図2は出納帳ファイルに記憶される出納帳データの一実施例を示す図である。

20

【0020】

出納帳データ20は、取引日付を記憶する日付領域（日付欄、以下、レコードやデータ内の記憶領域を単に欄と記す）21、帳簿コードを記憶する帳簿コード欄22、借方科目情報欄23、貸方科目情報欄24、摘要を記憶する摘要欄25、仕訳データが振替伝票入力によって生成された仕訳データの場合に、振替伝票入力／表示画面上の位置情報（行番号）を記憶する伝票展開番号欄26を有している。

【0021】

また、借方科目情報欄23及び貸方科目情報欄24は、科目コードを記憶する科目コード欄23-1、24-1と、科目を細分した補助科目コードを記憶する補助コード欄23-2、24-2と、金額を記憶する金額欄23-3、24-3と、課税区分コードを記憶する課区欄23-4、24-4と、消費税率を記憶する税区欄23-5、24-5と、消費税が内税か、外税か、課税対象外かを示すコードを記憶する税種区分欄23-6、24-6と、消費税額を記憶する消費税額欄23-7、24-7とからなっている。

30

【0022】

図3は科目別残高ファイル3に登録される、科目別残高レコードの構成例を示す図であり、科目別残高レコード30は、勘定科目コードを記憶する勘定科目欄31と、補助科目コード（但し、補助科目がない場合はスペース）を記憶する補助科目コード欄32と、借方勘定か貸方勘定かの別を示すコードを記憶する貸借コード欄33と、設定された残高金額を記憶する設定残高欄34と、残高日付を記憶する残高日付欄35と、この科目別残高レコードを使用するか否かの別を示すフラグ（使用可否フラグ）を記憶する使用フラグ欄36と、を備えている。

40

【0023】

図4は科目名ファイル4に記憶される科目名レコード40の構成例を示す図である。図4で、科目名レコード40は、勘定科目コードを記憶した勘定科目コード欄41、補助科目コードを記憶した補助科目コード欄42、科目の略称を記憶する略称欄43、正式科目名を記憶する正式科目名欄44等からなる。科目名ファイル4は勘定科目コードをキーとして検索され、勘定科目コードが一致した科目名レコードの科目名等が出納帳や残高試算表の科目名称表示欄に表示される。

【0024】

図5は出納帳表示画面の一実施例を示す図である。出納帳表示画面50は、処理対象とす

50

る帳簿や元帳等の種類（現金出納帳、小口現金出納帳、預金出納帳、売掛帳、買掛帳、応用帳、振替伝票、仕訳帳、元帳、補助元帳、日計表、試算表、・・・）を示すボタンやアイコン等が表示されている帳簿処理選択領域（帳簿処理選択欄；以下、表示部14に表示される画面上に割り当てられたデータ入力領域やデータ表示領域も単に欄と称する）51と、帳簿データの記帳処理等の種類、例えば、追加、訂正、削除、検索、ソート、摘要登録、・・・、印刷等、を示すボタン等が設けられた記帳処理選択欄52と、自勘定表示欄53、集計期間選択欄54、帳簿データが消費税抜きか消費税込みかを表示する消費税入力方法表示欄55（消費税入力方法表示欄55が表示されない記帳画面もある）と、見出しを表示する見出表示欄56と、複数の行からなる表示欄57と、合計欄58を配置してなる。なお、帳簿処理選択欄51及び記帳処理選択欄52に表示されるボタン等の種類や名称は記帳画面の種類や仕様変更によって異なる場合がある。 10

【0025】

オペレータが出納帳表示画面50の表示欄57の所望の行をマウス12でクリックするとクリックされた行（図示の例では摘要として「本社販売会議費 お茶代」が表示されている行）の摘要が反転表示される。次に、オペレータが帳簿処理選択欄51の「試算表」ボタン51-12をマウス12でクリックすると、残高試算表プログラムが呼び出され、図6に示すような残高試算表表示画面60が表示される。また、この際、残高試算表表示画面60には出納帳表示画面50でクリックされた行の科目（この例では「会議費」）を含む内容が表示され、「会議費」を含む表示行は反転表示される。

【0026】

図6は残高試算表表示画面の一実施例を示す図であり、残高試算表表示画面60は、処理する帳簿の種類（現金出納帳、小口現金出納帳、預金出納帳、売掛帳、買掛帳、応用帳、振替伝票、仕訳帳、元帳、補助元帳、日計表、試算表、・・・）を示すボタンやアイコン等が表示されている帳簿処理選択欄61と、残高試算表表示画面60での指定処理等の種類、例えば、集計期間の選択・指定を行う「集計期間」ボタン62-1、補助科目の表示・非表示を指示する「補助表示」ボタン62-2、科目設定／残高入力を指示する「科目設定・残高入力」ボタン62-3と、残高試算表の印刷出力を指示する「印刷」ボタン62-4が設けられた残高試算表処理選択欄62と、集計期間（年間、各月、決算月等）を表示する期間表示欄63と、見出しを表示する見出表示欄64と、複数の行からなる表示欄65を配置してなる。なお、帳簿処理選択欄61及び残高試算表処理選択欄62に表示されるボタン等の種類や名称は仕様変更によって異なる場合がある。 20 30

【0027】

また、表示欄65の各行は、科目コード表示欄65-1、勘定科目（又は補助科目コード＋補助科目）を表示する科目表示欄65-2、期首残高を表示する期首残高欄65-3、期間内に取引のあった借方金額の総額を表示する借方金額欄65-4、期間内に取引のあった貸方金額の総額を表示する貸方金額欄65-5、繰越残高を表示する繰越残高欄65-6を配置してなる。

【0028】

オペレータは帳簿処理選択欄61に表示されているボタン（又はアイコン）をクリックすることにより、他の画面にジャンプして当該処理を実行することができる。また、残高試算表処理選択欄62のボタンをクリックすることにより、特定の処理を実行することができる。例えば、「科目設定・残高入力」ボタン62-3をクリックすると、科目編集／残高設定プログラムが呼び出され、図7に示すような科目編集／残高設定画面70が表示されるので、科目の編集や残高の設定入力を行うことができる。 40

【0029】

例えば、図6に示すように、残高試算表表示画面60には図5の出納帳表示画面50でオペレータがマウス12でクリックされた行の科目（図5の例では「会議費」）を含む表示行が反転されて表示される（図示の都合上、反転部分をハッチングで示す、以下同じ）。なお、オペレータが残高試算表表示画面60の表示欄65の所望の行をマウス12でクリックして反転表示される行を変更することもできる。 50

【0030】

図7は科目編集／残高設定画面70の一実施例を示す図であり、科目編集／残高設定画面70は、処理する帳簿の種類（現金出納帳、小口現金出納帳、預金出納帳、売掛帳、買掛帳、応用帳、振替伝票、仕訳帳、元帳、補助元帳、日計表、試算表、・・・）を示すボタンやアイコン等が表示されている帳簿処理選択欄71と、科目編集／残高設定画面70での指定処理等の種類、例えば、補助科目の表示・非表示を指示する「補助表示」ボタン72-1、補助科目の追加を指示する「補助追加」ボタン72-2、科目設定／残高の訂正入力を指示する「訂正」ボタン72-3、勘定科目及び補助科目の削除を指示する「削除」ボタン72-4、勘定科目の追加入力を指示する「科目追加」ボタン72-5、科目検索指示を行う「検索」ボタン72-6、科目設定指示を行う「科目設定」ボタン72-7、残高設定入力画面への移行指示を行う「残高入力」ボタン72-8、科目印刷指示を行う「科目印刷」ボタン72-9が設けられた科目編集／残高設定処理選択欄72と、見出しを表示する見出表示欄73と、複数の入力／表示行からなる入力／表示欄74を配置してなる。なお、帳簿処理選択欄71及び科目編集／残高設定処理選択欄72に表示されるボタン等の種類や名称は仕様変更によって異なる場合がある。

10

【0031】

また、入力／表示欄74の各行は、勘定科目コードを表示する科目コード表示欄75-1、勘定科目（又は補助科目コード＋補助科目）を表示する科目表示欄75-2、貸借区分を表示する貸借区分欄75-3、当該行の勘定科目を使用するか否かを設定する科目使用可否設定欄75-4、期首残高を表示する期首残高欄75-5、期間内に取引のあった借方金額の総額を表示／入力する借方取引額欄75-6、期間内に取引のあった貸方金額の総額を表示／入力する貸方取引額欄75-7、繰越残高を表示する繰越残高欄75-8を配置してなる。

20

【0032】

オペレータは帳簿処理選択欄71に表示されているボタン（又はアイコン）をクリックすることにより、他の画面にジャンプして当該処理を実行することができる。また、科目編集／残高設定処理選択欄72のボタンをクリックすることにより、特定の処理を実行することができる。

【0033】

例えば、オペレータは科目編集／残高設定画面70で後述（図8～図12）するように科目設定や科目訂正等の科目編集を行うことができる。また、「残高入力」ボタン72-8をマウスでクリックすることにより後述（図8、図13）するように所望の科目の残高設定を行うことができる。

30

【0034】

また、科目表示欄75-2、科目使用可否設定欄75-4、期首残高欄75-5が差別表示（例えば、反転表示）されている際に、差別表示されている欄をマウス12でクリックするか、あるいは差別表示されていないときにそれらの欄をダブルクリックするとそれぞれの欄に対応して、▲1▼科目訂正処理（図9を表示）、▲2▼科目使用可否の設定（使用、不使用の選択用ウインドウ（図示せず）の表示）、▲3▼期首残高入力処理（この際の期首残高入力は指定した欄への金額の直接入力となり、改行すると次の行の期首残高の欄が入力可能となる）、を行うことができる。

40

【0035】

図8は科目編集／残高設定時の会計処理装置の概略動作例を示すフローチャートである。以下、図8のフローチャート及び図7、図9～図12に基いて科目編集／残高設定時の会計処理装置1の動作例を説明する。また、科目編集／残高設定処理はプログラム格納メモリに格納されている科目編集／残高設定プログラムに基いて実行される。

【0036】

会計処理装置1で会計処理システムプログラムを実行中に科目編集／残高設定処理の選択指示を行うと科目編集／残高設定プログラムが呼び出される。科目編集／残高設定処理の選択指示は、例えば、表示部14に表示される総合メニュー（図示せず）で科目編集／残

50

高設定処理を選択するか、残高試算表の表示時に表示される残高試算表処理選択欄 6 2 に設けられた「科目設定・残高入力」ボタン 6 2-3 をクリックすることにより行うことができる（ステップ S 0）。

【0037】

制御部 1 0 は、科目編集／残高設定プログラムに従って図 7 に示したような科目編集／残高設定画面 7 0 を表示する。図 7 の例は、科目編集／残高設定処理欄 7 2 に設けられた「科目設定」ボタン 7 2-7 がクリックされた状態を示している（ステップ S 1）。

【0038】

次に、制御部 1 0 は科目編集／残高設定処理選択欄 7 2 でどのボタンが選択された（ボタンがマウス 1 2 でクリックされたことを意味する、以下同じ）かを調べ、科目編集を意味する「科目設定」ボタン 7 2-7 が選択された場合はステップ S 3 に遷移し、残高設定を意味する「残高入力」ボタンが選択された場合はステップ S 2 0 に遷移する（ステップ S 2）。

【0039】

「科目設定」ボタン 7 2-7 が選択された場合は、科目編集／残高設定処理選択欄 7 2 で更にボタンが選択されたかを調べ、勘定科目の追加を意味する「科目追加」ボタン 7 2-5 が選択された場合はステップ S 4 に遷移し、勘定科目の訂正を意味する「訂正」ボタン 7 2-3 が選択された場合はステップ S 7 に遷移し、補助科目の追加を意味する「補助追加」ボタン 7 2-2 が選択された場合はステップ S 1 1 に遷移し、「検索」ボタン 7 2-6 が選択された場合はステップ S 1 6 に遷移する（ステップ S 3）。

【0040】

上記ステップ S 3 で、「科目追加」ボタン 7 2-5 が選択された場合は、図 9 に示すような勘定科目設定画面 9 0 を科目編集／残高設定画面 7 0 上に表示して、勘定科目設定を促す（ステップ S 4）。

【0041】

オペレータが勘定科目設定画面 9 0 に表示される正式名称入力欄 9 2 及び略名称入力欄 9 3 に正式科目名称及び略名称を入力し、使用区分欄 9 4 に使用区分コード（例えば、使用→1、不使用→0）を入力した後、確定操作（確定ボタン 9 5 のクリック又は改行キーの押し下げ）を行うとステップ S 6 に遷移し、キャンセルボタン 9 6 をクリックすると勘定科目設定画面 9 0 をクリア（消去）してステップ S 2 に戻る。また、使用区分欄 9 4 に使用区分コードが入力された際、入力された使用区分コードの意味を表す文字列（例えば、使用区分コード→1→「使用する」、使用区分コード→0→「使用しない」）を表示する。なお、科目コード表示欄 9 1 には科目コードが自動設定される（ステップ S 5）。

【0042】

勘定科目設定画面 9 0 の科目コード表示欄 9 1、正式名称入力欄 9 2、略名称入力欄 9 3 及び使用区分欄 9 4 に科目コード（プログラムにより自動割当）、正式名称、略名称及び使用区分コードからなる科目名レコードと、科目コード、貸借コード、残高（=0）からなる科目別残高レコードを生成して科目名ファイル 4 及び科目別残高ファイル 3 に書き込み、勘定科目設定画面 9 0 及び RAM に保持した科目名レコードをクリアしてステップ S 2 に遷移する（ステップ S 6）。

【0043】

上記ステップ S 3 で、勘定科目の訂正を意味する「訂正」ボタン 7 2-3 が選択された場合は、制御部 1 0 は、科目編集／残高設定画面 7 0 の科目コード表示欄 7 5-1 及び科目表示欄 7 5-2 が反転されている科目 9 9 の科目コードをキーとして科目名ファイル 4 からキーに一致する科目名レコードを検索し、取得した科目名レコードを RAM に保持（一時記憶）する。なお、反転されている科目 9 9 はオペレータがマウス 1 2 で科目編集／残高設定画面 7 0 の科目コード表示欄 7 5-1 又は科目表示欄 7 5-2 をクリックすることにより変わり、新たな科目コードで科目名ファイル 4 から科目名レコードが取り出され、RAM に保持している科目名レコードに上書き記憶される（ステップ S 7）。

【0044】

次に、科目編集／残高設定画面 70 上に図 9 に示したような勘定科目設定画面 90 を表示し、その科目コード表示欄 91、正式名称入力欄 92、略名称入力欄 93 及び使用区分欄 94 に RAM に保持した科目名レコードの科目コード、正式名称、略名称及び使用区分コードを表示してオペレータの訂正入力を促す。また、この際、使用区分欄 94 には使用区分コードと共にその意味を示す文字列を表示して、オペレータの訂正入力を促す（ステップ S8）。

【0045】

オペレータが、勘定科目設定画面 90 の正式名称入力欄 92、略名称入力欄 93 及び使用区分欄 94 のうち訂正したい欄をマウス 12 でクリックして訂正入力（キーインによる上書き入力）を行なった後、確定操作（確定ボタン 95 のクリック又は改行キーの押し下げ）を行うとステップ S10 に遷移し、キャンセルボタン 96 をクリックすると勘定科目設定画面 90 及び RAM に保持した科目名レコードをクリアしてステップ S2 に戻る。なお、使用区分欄 94 の使用区分コードに訂正入力された際は、入力された使用区分コードの意味を表す文字列を表示する。また、訂正入力内容により RAM に保持した科目名レコードの該当欄の記憶内容が更新される（ステップ S9）。

【0046】

次に、科目コードをキーとして科目名ファイル 4 を検索し、科目コードが一致した科目名レコードに RAM に保持している科目名レコードを上書き記憶してその科目名レコードを更新し、勘定科目設定画面 90 及びステップ S7 で RAM に保持した科目名レコードをクリアしてステップ S2 に遷移する（ステップ S10）。

【0047】

上記ステップ S3 で補助科目の追加を意味する「補助追加」ボタン 72-2 が選択された場合は、制御部 10 は、科目編集／残高設定画面 70 の科目コード表示欄 75-1 及び科目表示欄 75-2 が反転されている科目 99 の科目コードをキーとして科目名ファイル 4 からキーに一致する科目名レコードを検索し、科目名ファイルの補助科目コード欄 42 に補助科目コードが記憶されている科目名レコードを順次取得して順次 RAM に保持（一時記憶）する。なお、反転されている科目 99 はオペレータがマウス 12 で科目編集／残高設定画面 70 の科目コード表示欄 75-1 又は科目表示欄 75-2 をクリックすることにより変わり、RAM に保持している科目名レコードをクリアした後、新たな科目コードで科目名ファイル 4 から補助科目コード欄 42 に補助科目コードが記憶されている科目名レコードが順次取り出され、RAM に順次記憶される（ステップ S11）。

【0048】

次に、図 10 に示すような補助科目追加画面 100 を科目編集／残高設定画面 70 上に表示し、RAM に保持している科目名レコードの勘定科目コード及び略名称を勘定科目表示欄 101 に表示し、補助科目コード及び補助科目名を各行のコード欄 102、補助名称欄 103 に順次表示し、カーソル 109 を表示されている行の次の行に表示してオペレータの追加入力を促す（ステップ S12）。

【0049】

オペレータが補助科目コード及び補助科目名を各行のコード欄 102、補助名称欄 103、開始残高欄 104 に入力すると、RAM に保持している科目名レコードの勘定科目及び略名称及び入力された補助科目コード及び科目名からなる科目名レコードと、科目コード、補助科目コード、貸借コード、残高からなる科目別残高レコードとを生成して RAM に保持する。1 行分の入力が終わるとカーソル 109 が次の行に移動し、新たな補助科目の追加入力を促す（ステップ S13）。

【0050】

上記ステップ S13 で補助科目の追加入力が終わった後、オペレータが確定操作（確定ボタン 105 のクリック又は改行キーの押し下げ）を行うとステップ S15 に遷移し、キャンセルボタン 106 をクリックすると補助科目追加画面 100 及び RAM に保持した科目名レコードをクリアしてステップ S2 に戻る（ステップ S14）。

【0051】

上記ステップ S 1 2 で生成され、R A M に保持されている追加入力された科目名レコードと、科目別残高レコードを順次科目名ファイル 4 及び科目別残高ファイル 3 に書き込み、補助科目追加画面 1 0 0 及び R A M に保持した科目名レコードをクリアしてステップ S 2 に遷移する（ステップ S 1 5）。

【 0 0 5 2 】

上記ステップ S 3 で「検索」ボタン 7 2 - 6 が選択された場合は、制御部 1 0 は、科目名ファイル 4 から科目名レコード 4 0 を順次読み出し、勘定科目コード 4 1 及び勘定科目名 4 3 を取り出して R A M に保持し（ステップ S 1 6）、科目名検索画面 1 1 0 を科目編集／残高設定画面 7 0 に表示し、オペレータに科目名の検索条件の入力（勘定科目コード及び勘定科目名）を促す（ステップ S 1 7）。科目名検索画面 1 1 0 の検索結果の表示内容はスクロールするのでオペレータが確定ボタン 1 0 5 をクリックするか改行キーを操作して所望の科目を選択するとステップ S 1 9 に遷移する。また、キャンセルボタン 1 1 6 をクリックすると R A M に保持した勘定科目コード及び勘定科目名をクリアしてステップ S 2 に戻る（ステップ S 1 8）。

【 0 0 5 3 】

科目名検索画面 1 1 0 をクリアして、上記ステップ S 1 8 で選択した科目を科目編集／残高設定画面 7 0 の最上段の行に反転表示し、関連科目を順次次の行に表示してからステップ S 2 に遷移する（ステップ S 1 9）。

【 0 0 5 4 】

上記ステップ S 2 で「残高入力」ボタン 7 2 - 8 が選択された場合は、まず、科目分類ファイル（図示せず）から科目分類レコードを取り出して R A M に保持し、その科目分類を一覧表示した分類名選択画面 1 2 1 を科目編集／残高入力画面 7 0 に表示してオペレータに科目分類の選択を促し（ステップ S 2 0）、オペレータが科目分類を選択すると（ステップ S 2 1）、更に、選択された科目分類に属する科目を含む残高入力画面 1 2 5 を科目編集／残高入力画面 7 0 に表示してオペレータに科目の選択を促す。また、この際、合計欄 1 2 5 - 5 に借方金額の合計及び貸方金額の合計を、貸借の合計額が一致していない場合は合計欄 1 2 5 - 4 の借方金額の合計と貸方金額の合計との差額を差額欄 1 2 5 - 4 に、メッセージ欄 1 2 5 - 6 に差額の有無に応じたメッセージ（例えば、「貸借不一致」）を表示する（ステップ S 2 2）。

【 0 0 5 5 】

オペレータが残高入力対象の科目をマウス 1 2 のクリック又はカーソルの移動操作により選択し、その科目の期首残高入力欄 1 2 5 - 3 に期首残高を入力すると、科目コードと関連付けて入力された期首残高金額を R A M に保持する。また、入力された金額に対応した借方或いは貸方の合計金額を再計算し、差額欄 1 2 5 - 5 に期首残高入力後の借方金額の合計及び貸方金額の差額を表示し、メッセージ欄 1 2 5 - 6 に差額の有無に応じたメッセージを表示する（ステップ S 2 3）。

【 0 0 5 6 】

また、確定操作のために「科目設定」ボタン 7 2 - 7 がクリックされた場合は、科目別残高ファイル 3 を R A M に記憶されている科目コードで順次検索し、科目コードに一致する科目別残高レコードの設定残高欄 3 4 に R A M に記憶されている科目コードに関連付けられた設定残高を順次記憶し、R A M に記憶した設定残高の全てを記憶すると分類名選択画面 1 2 1、残高入力画面 1 2 5 及び R A M に記憶されている科目分類レコードや設定残高をクリアしてステップ S 2 に遷移する（ステップ S 2 4）。

【 0 0 5 7 】

図 1 3 は上記図 8 のステップによる科目編集／残高設定後の科目編集／残高設定画面の実施例を示す図である。図 1 3 の例では、科目編集／残高設定画面 7 0 の期首残高欄 7 5 - 5 には上記図 8 のステップ S 1 → S 2 → S 2 0 → S 2 1 → S 2 2 を経てステップ S 2 3 で設定入力された「会議費」の期首残高「1 0, 0 0 0 円」がステップ S 2 3 → S 2 4 を経て科目編集／残高設定画面 7 0 に表示されている。

【 0 0 5 8 】

なお、上記各実施例の説明では、出納帳データや補助簿データを1行1取引で入力／表示するデータ入力／表示画面の記帳入力処理で自動仕訳を行う場合を例として示したが、本発明は帳簿データの記帳入力の場合に限定されず、伝票等のメモを基に会計データを入力する場合についても適用できる。

【0059】

以上、本発明のいくつかの実施例について説明したが本発明は上記各実施例に限定されるものではなく、種々の変形実施が可能であることはいうまでもない。

【0060】

【発明の効果】

上記説明したように、本発明によれば一つの画面を用いて科目編集や残高設定用の指示を行い、その画面上に指示に応じた科目編集や残高設定用の画面を表示して科目編集や残高設定を行うので、科目編集や残高設定を簡単に行うことができる。また、期首残高だけでなく、取引総額や繰越残高も設定画面に表示されるので、インストール時の期首残高設定等の場合に残高設定が簡単ばかりでなく、金額のバランスチェックを簡単に行うことができるので残高設定を適正に行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の科目名変更／残高設定プログラムを実行可能な会計処理装置のハードウェア構成を示すブロック図である。

【図2】出納帳ファイルに記憶される出納帳データの一実施例を示す図である。

【図3】科目別残高ファイルに登録される科目別残高レコードの構成例を示す図である。 20

【図4】科目名ファイルに記憶されている科目名レコードの構成例を示す図である。

【図5】出納帳表示画面の一実施例を示す図である。

【図6】残高試算表表示画面の一実施例を示す図である。

【図7】科目編集／残高設定画面の一実施例を示す図である。

【図8】科目編集／残高設定時の会計処理装置の概略動作例を示すフローチャートである。

【図9】勘定科目設定画面の一実施例を示す図である。

【図10】補助科目設定画面の一実施例を示す図である。

【図11】科目名検索画面の一実施例を示す図である。

【図12】残高設定用画面の一実施例を示す図である。 30

【図13】科目編集／残高設定後の科目編集／残高設定画面の一例を示す図である。

【図14】従来の残高設定画面の一例を示す図である。

【符号の説明】

1 会計処理装置

2 出納帳ファイル

3 科目別残高ファイル

4 科目名ファイル

10 制御部

11 キー入力部

12 マウス（情報選択・指定手段） 40

20 出納帳レコード

30 科目別残高レコード

40 科目名レコード

50 出納帳表示画面

60 残高試算表表示画面

70 科目編集／残高設定画面

90 勘定科目設定画面

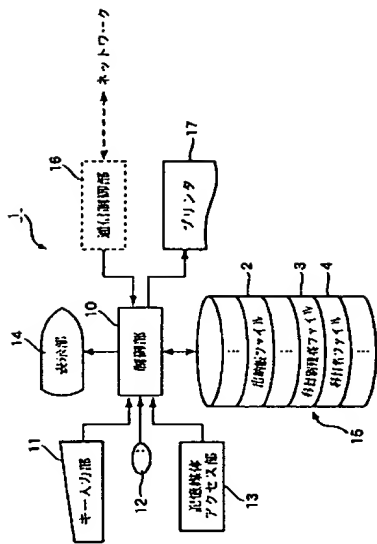
100 補助科目追加画面

110 科目名検索画面

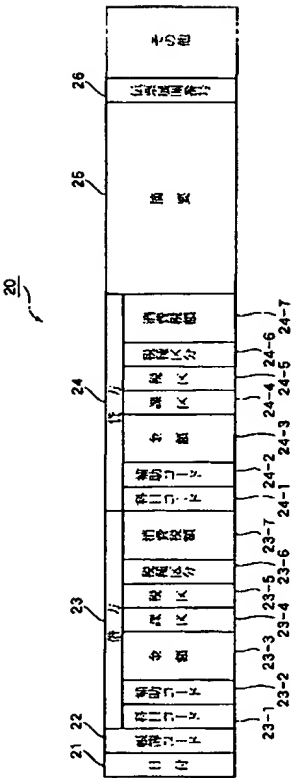
121 分類名選択画面 50

1 2 5 残高入力画面

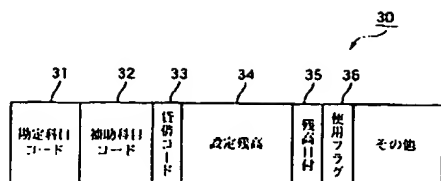
【図 1】



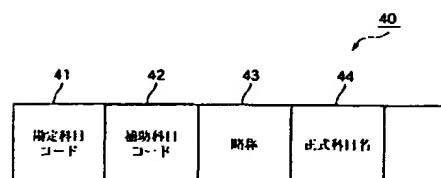
【図 2】



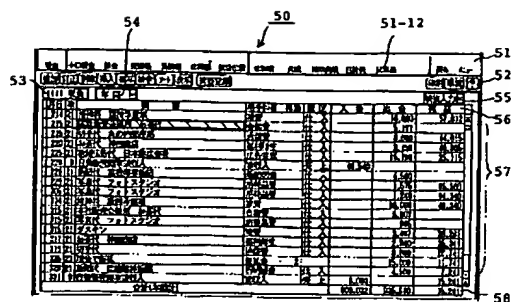
【图 3】



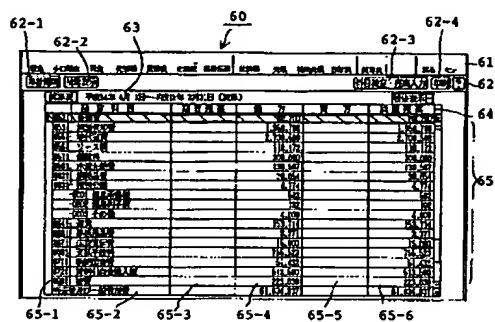
【图 4】



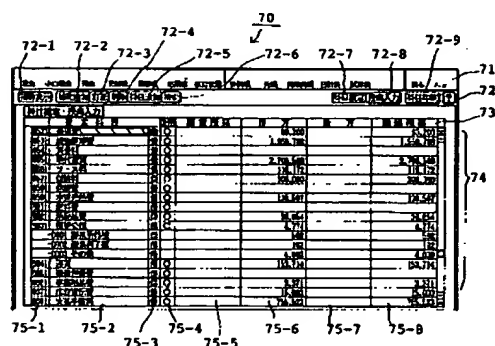
【图 5】



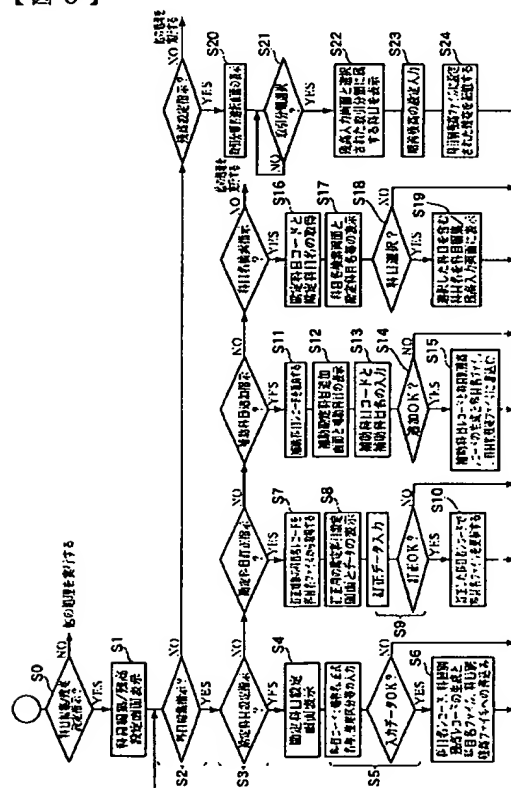
【 例 6 】



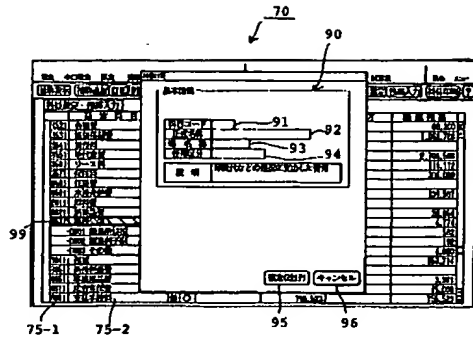
【图 7】



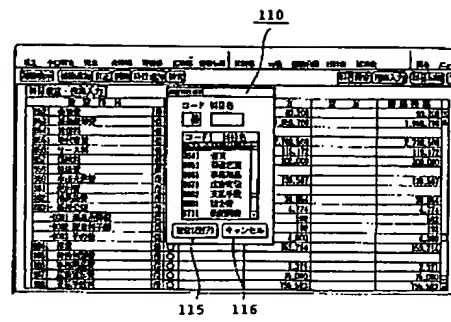
【图 8】



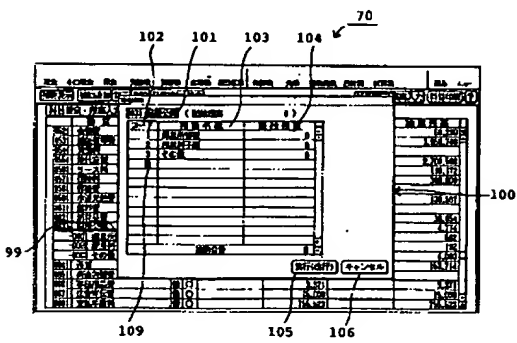
【図 9】



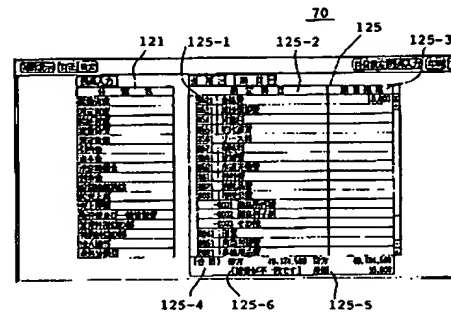
【図 11】



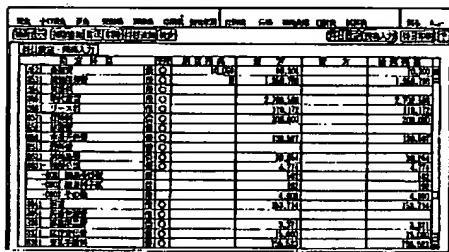
【図 10】



【図 12】



【図 13】



【図 14】

